

文化

花と子どももの 画家

いわさきちひろ
生誕100年

1946年5月、上京したちひろは人民新聞の記者となり、日中は職場で働き、夜は芸術学校に通うようになる。朝は6時半から丸木位里と俊の早朝デッサン会に出てから出勤することもあったようだ。

丸木アトリエは池袋モンパルナスと呼ばれる芸術家村にあつた。昭和の初めころから池袋の西にアトリエ付き借家が造られた。詩人の小熊秀雄が上野を芸術家たちが集うパリのモンマルトルの丘に例えるなら、この地

丸木位里・俊との出会い

松本 猛 ⑩

教えの下にひたすら描く

は貧しい芸術家たちが集まるモンパルナスだと言ったのが名前の由来だ。松本峻介、熊谷守一、鬮光、長谷川利行、浜田知明、北川民次、丸木夫妻ら現在にも名を残す画家たちをはじめ、最盛期には100人以上が住んでいた。しかし、戦争末期になると疎開や召集によって芸術家村

は衰退する。戦後は、疎開先から戻ってきた丸木夫妻らの周りに新たな画家たちも加わり、池袋モンパルナスは前衛美術運動の拠点になった。ちひろは、ここで革命を夢見る多くの画家たちに接し、プロレタリア美術の洗礼を受ける。また、戦前に少女雑誌で目

にしていた大きな瞳の少女の絵で一世を風靡した中原淳一もここにいた。ちひろは下宿先の近くにできた中原淳一の雑貨店「ヒマワリ」に通うようになる。新しい時代の始まりの中で、あらゆるものを吸収していくが、最も大きな影響を受けたのは丸木夫妻からだった。俊につ



丸木位里・丸木俊 原爆の図 第3部「水」(部分)1950年(原爆の図丸木美術館所蔵)

いてデッサンを学び始めたちひろは、俊そっくりの絵を描くようになる。ひたすら描け、という俊の指導の下に、電車の中でも集会でもスケッチをした。早朝デッサン会でヌードデッサンをするために、順番で裸のモデルにもなり勉強に励んだ。俊とは急速に親しくなり、2人でスケッチ旅行にも行くようになった。後年、俊はちひろとの関係を師弟というより姉妹のようだったと語っている。

位里の水墨画を間近に見る機会を得たちひろは、その技術を学ぶ。それは後の水彩画に多用されるにじみの中に生かされることになった。

丸木夫妻はやがて「原爆の図」を描く決意をする。ちひろは夫妻から技術だけでなく思想的にも大きな影響を受けた。

(美術評論家)
〈土曜日に掲載します〉